

## 1 単元 愛知県の伝統工芸品新聞をつくろう

### 2 目標

愛知県の伝統工芸品の歴史や製造工程などの特徴を、調べたい伝統工芸品のグループごとに新聞にまとめて、発表することができる。

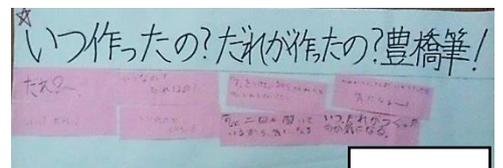
### 3 情報の交流を行う場面と期待される効果

自分で考えた複数の新聞の見出しや新聞記事の内容を友達と読み合い、お互いに意見やアドバイスをすることで、情報の交流を行う。読み手がどんな見出しだと興味をもつのか、読みやすい記事にするにはどうしたらいいのかに気付き、読み手の興味、ニーズを意識した情報発信を行うことができる。

### 4 実践の様子

本学級では調べたことを新聞にまとめて情報発信するとき、インターネットや図書資料から見付けた文をそのまま書き写していた。中には、読むことができない熟語を使っている子どももいた。そこで、相手がどんなことを知りたがっているのか、何に興味があるのか、などを常に意識しながら予想、確認、再構成をして新聞づくりをすることにした。

はじめに、愛知県の主な伝統工芸品のリストの中から調べたい伝統工芸品ごとにグループ分けをした。その後、自分が担当する伝統工芸品についてインターネットで調べた。子どもたちは、収集した情報から自分が伝えたい内容を選び、読む人が興味をもつ見出しをいくつか考えた。



資料①

(例)「豊橋筆の歴史」→「いつ作ったの？だれが作ったの？豊橋筆！！」【資料①】

次に、子どもたちは、考えた見出しを友達に見てもらい、興味をもった見出しに付箋紙を貼り、その理由を書いてもらった。(確認)

子どもたちは見出しに貼ってある付箋紙の状況を見て、付箋紙が多い見出しの記事にするのか、伝えたいことを織り交ぜながら記事にするのか、記事の内容を考えた。さらに、友達とできた記事の内容について、グループ内でそれぞれの記事を読み合った。そして、新聞を読む人が興味をもつか、満足できるかなどについて話し合い、アドバイスし合った。【資料②】



資料②

グループ内で話し合った結果、相手の興味やニーズに応えることができるように、難しい言葉には、ふりがなや説明文を付けたり、読みやすいように写真や絵の位置を工夫したりして、新聞づくりに取り組んだ。(再構成)

完成した新聞を伝統工芸品別に掲示しながら、発表会をした。子どもたちは、相手を意識して分かりやすく発表するために、身振り手振りを加えたり、聞いている人の様子を見たり、指や鉛筆などで伝えている記事を指し示したりしながら発表した。最後に、互いの発表を聞いて、新聞記事のどんな内容が良かったのかをそれぞれ振り返った。

子どもたちからは、「記事の内容と写真が近くにあったり、大切な言葉が赤で書いてあったりしていたので、読みやすかった。」「手や棒できちんと指し示しながら発表していたから分かりやすかった。」という声が聞かれた。相手を意識してグループで話し合ったためだと考えた。

### 5 成果と課題

- 新聞づくりにおいて、相手の考えや興味、ニーズを取り入れた製作をすることで、まとめた情報を見直すきっかけとなり、相手を意識した情報発信に近づくことができた。
- 相手を意識した伝え方をグループで考えたとき、伝え方についての意見は多くあったが、内容面についての意見はあまり出ないことがあり、内容面の改善までは至らなかった。